

お帰りの際は、本ガイドをご返却ください。

日本語

セルフガイド ツアー

簡易ガイド



ようこそ

セント・ポール (聖パウロ) 大聖堂は、ビクトリア州管区およびメルボルン教区における聖公会信徒の拠点教会です。当大聖堂には国際色豊かな礼拝者が集い、25か国以上の多様な背景を持つ方々がホームチャーチとして定期的に礼拝に参加しています。私たちは、キリスト教の他宗派の方々はもとより、他宗教の信仰をお持ちの方や信仰を持たない方にも広く門戸を開いています。当大聖堂は一年を通して、どなたでも無料でご見学いただけます。

当大聖堂は、先住民であるクーリン・ネイションのウルンジェリ族が、その存在と精神の源として守り続けてきた土地の上に建てられています。この土地は譲渡されたものではなく、彼らの同意なく奪われたものです。私たちはこの歴史を真摯に受け止め、ウルンジェリ族の祖先に深く感謝の意を表すと共に、彼らの「エルダー (精神的リーダー・伝統の継承者)」が今日も受け継ぐ「土地の護り手」としての義務・権利を尊重いたします。また、すべての先住民の方々が、より正当で公正な和解を得られるよう努め、祈りを捧げてまいります。先住民の方々が私たちを受け入れ、共に歩んでくださることに敬意と感謝を表します。

当大聖堂は、祈りと礼拝の場です。私たちの信仰の中心には、イエス・キリストがおられます。イエスは神の子でありながら人としてこの地に来られ、神の深い愛をすべての人に示されました。やがてイエスは十字架にかけられて死なれますが、三日後に新しい命を得て復活されます。この出来事は、人類の苦しみや悪が永遠に続くものではないことを示し、私たちに希望を与えてくれます。当大聖堂の静謐な雰囲気と礼拝のひとつときを尊重し、館内ではお静かにお過ごしくくださいますようお願いいたします。

このセルフガイドツアーのシート裏面では、当大聖堂の美しい建築や堂内でご覧いただける貴重な品々をご紹介します。スワンストン・ストリート側の側廊にあるガイドデスクから順にご覧ください。本ガイドシートはお帰りの際にご返却くださいますようお願いいたします。また、大聖堂内では自由に写真撮影していただけますが、個人礼拝のためのスペースでは、撮影をご遠慮ください。

ご案内時間中には専門知識の豊富なガイドが堂内におりますので、大聖堂の建造物や歴史についてご質問があればお気軽にお声がけください。また、キリスト教の信仰についてご質問がある方や心の悩みなどをお話しになりたい方は、当番チャプレン (聖職者) までご相談ください。

当大聖堂は、州政府や教会組織からの資金援助を一切受けておりません。当大聖堂は、訪問される皆さまからのご支援によって運営されております。つきましては、お一人につき5ドルの献金をお願いしております。皆さまの温かいご協力により、今後も引き続き、多くの訪問者や巡礼者をお迎えすることが可能となります。

私たちと一緒に礼拝しませんか? 週間スケジュール

日曜日

午前8時	祈祷書による聖餐式
午前10時	聖歌隊による聖餐式
午前1時	中国語の聖餐式
午後4時	聖歌隊による夕べの礼
午後6時	セント・ポール大聖堂での礼拝の集い

土曜日

午後12時15分 聖餐式

平日

午後12時15分	聖餐式
午後5時10分	(月) やさしい英語による夕べの祈り、 (火一金) 聖歌隊による夕べの礼拝*

* (火一金) 聖歌隊による夕べの礼拝は、学校の学期中のみを実施しています。予定が変更になる場合もありますので、詳細は公式ウェブサイトでご確認いただくかスタッフまでお問い合わせください。

祈りの言葉

神よ、あなたの栄光のためにこの大聖堂は建てられました。このセント・ポール大聖堂に仕える者、ここを訪れ、祈るすべての者に祝福をお与えください。この大聖堂が常にあなたの愛を感じ、あなたの真実が告げられ、あなたの御名が讃えられる場でありますように。主イエス・キリストの名においてアーメン

どうぞ私たちのことをお祈りください。私たちが毎日、訪れる皆さまのために祈っております。

ご連絡・お問合せはこちらから

大聖堂オフィス

209 Flinders Lane, Melbourne VIC 3000

www.cathedral.org.au • (03) 9653 4333

welcome@stpaulscathedral.org.au

f @StPaulsCathedralMelbourne @StPaulsCathedralMelb



もっと詳しく知りたい方はー

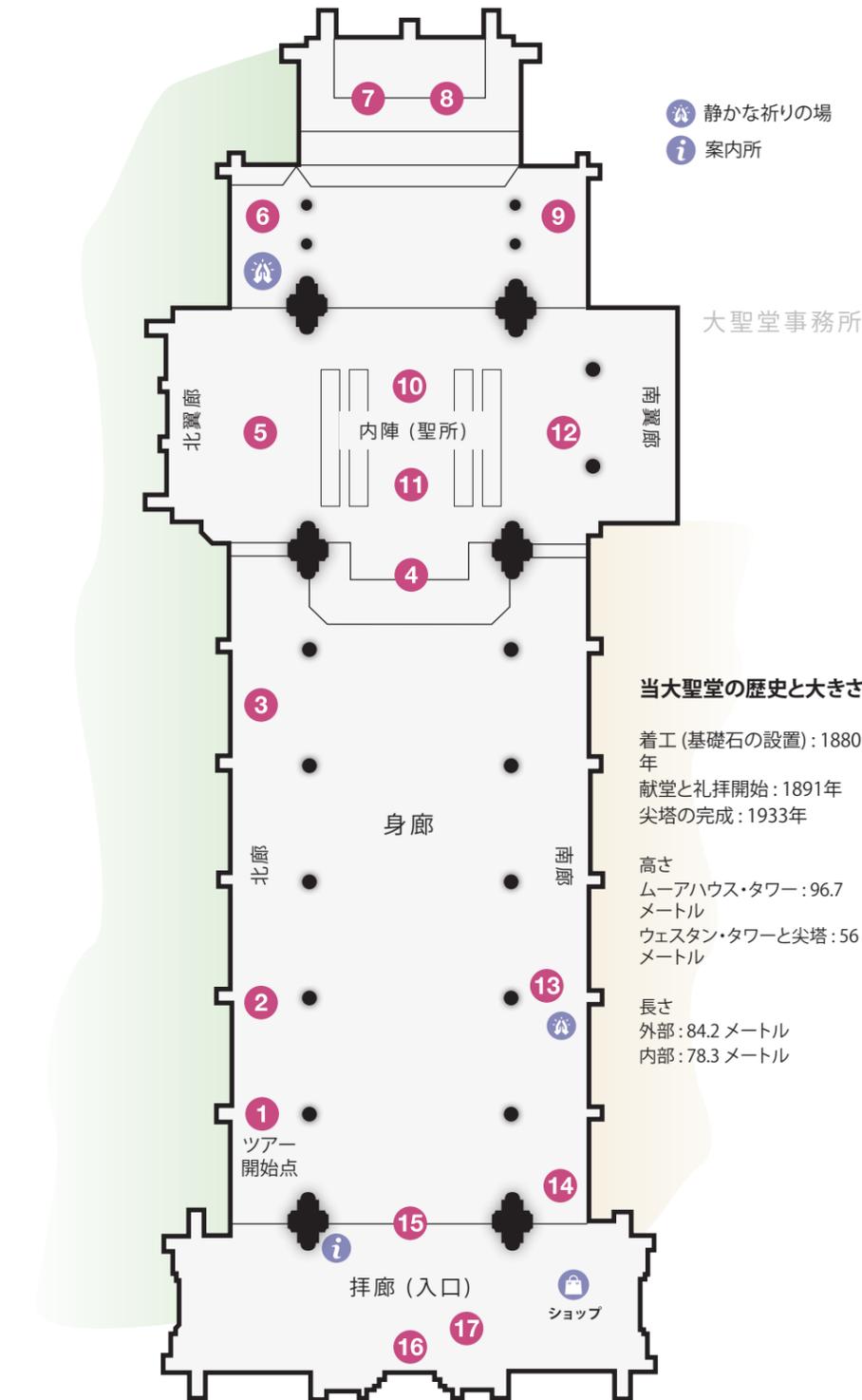
拝廊部 (扉口付近) にあるショップにて、詳細なガイドブックを販売しております。また、葉書やお土産品などもお求めいただけます。

スワンストーン・ストリート側の側廊からツアーを始めましょう。当マップをご覧ください。当大聖堂は、イエス・キリストが私たちに永遠の命を与えるために十字架の上で亡くなられたことを思い起こさせるよう、十字架の形をしています。「Cathedral (大聖堂)」という言葉は、ギリシャ語の「kathedra」に由来しており、これは主教(司教・教区の長)が座る「教への椅子」あるいは「玉座」を意味します。当大聖堂の主教座は、聖歌隊席の隣に位置しています(マップの10番)。

当大聖堂は、1880年に着工してからわずか11年で完成し、1891年に献堂されました。設計を手がけたのはイギリス人建築家ウィリアム・バターフィールドで、中世ゴシック建築の二つの様式を取り入れたネオ・ゴシック様式が採用されています。バターフィールド自身は一度もオーストラリアを訪れませんでした。彼がメルボルンに送った設計の原寸図をもとに建築が進められました。これらの図面は現在、ビクトリア州立図書館に所蔵されています

当大聖堂の『石造建築』は、イタリアのシエナ大聖堂の影響を受けており、オーストラリア産の砂岩、石灰岩、ブルーストーン(玄武岩)で造られています。『ステンドグラス窓』は、ロンドンのリージェント街にあったクレイトン&ベル社によって製作されました。スワンストーン・ストリート側の窓には聖パウロの生涯が、反対側の窓にはイエス・キリストの生涯が描かれています。

- 1 大聖堂の中央部分に位置する『NAVE (身廊)』をご覧ください。「nave」という言葉は、ラテン語の「navis (船)」に由来しています。イエスの周りに集った初期の信者らは漁師であり、当大聖堂の守護聖人パウロは、キリスト復活の良い知らせ(福音)を伝えるために地中海を商船で旅しました。当大聖堂の屋根はニュージーランド産のカウリ材でできており、まるで船体のような形をしています。
- 2 側廊をお歩きの際は、足元や壁の『タイル装飾』にもぜひご注目ください。これらのタイルは、英国シュロップシャー州アイアンブリッジにあった著名な陶器・タイル製造会社「マウ・アンド・カンパニー」によって製作されました。
- 3 スワンストーン・ストリート側の壁には、戦争や紛争で命を捧げた勇敢な男女の犠牲を追悼するとともに、慈善家や社会的功労者の生涯を称える『記念銘板』が掲げられています。キリストは弟子たちに“あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない”と語られました。多くのキリスト教徒がこの教えに従い、無私の奉仕の精神を大切にしています。また、メルボルン出身の画家、バイオレット・ティエグによるキリスト降誕の絵画『アンザック・クリスマス』は、第一次世界大戦で亡くなった人々を偲ぶために制作されました。
- 4 身廊の『祭壇台』は、当大聖堂での礼拝が行われる場所です。左側には装飾の美しい木製の『説教壇』があります。毎週日曜と聖祭日、説教者が聖書について語る場です。この説教壇は、地元の職人たちが大聖堂内で丹念に彫り上げました。右側には、真鍮製の『鷲型朗読台』があります。これは、開いた聖書を置く台です。キリスト教徒は、「救いに必要なすべてのことは聖書にある」と信じています。ご希望に応じて、大聖堂内で聖書をお読みいただけます。
- 5 『翼廊ギャラリー』では定期的に美術展を開催しています。
- 6 『昇天の礼拝所』は、個人が静かに祈りをささげるための空間です。祈りの静謐さを保つため、どうぞお静かに鑑賞ください。また、写真撮影はご遠慮くださいますようお願いいたします。キリストの昇天を描いたモザイク画は、ヴェネツィアのムラーノ島で作られたガラスと石のモザイクタイルで出来ています。『マザーズ・ユニオン記念銘板』の上にあるステンドグラス窓には、キリスト誕生の情景が描かれています。



7 主祭壇の上にある『祭壇画(装飾壁)』には、「最後の晩餐」と「イエスの磔刑(十字架刑)」が描かれています。弟子たちとの最後の晩餐の席で、イエスはパンを割いてこう言われました-“これは私の身体である。私を覚えて、これを行いなさい”。続いてぶどう酒を取り、こう語られました-“これは私の血である。あなたがたの罪が赦されるために流される血である”。当大聖堂では、イエスが私たちの贖いのために十字架の上でその御身体を裂き、血を流されたことを心に刻むため、毎日午後12時15分から聖餐式を行い、割かれたパンとぶどう酒をともに分かち合っています。どなたでも自由にご参加いただけますのでどうぞお気軽にお越しください。この壮麗なモザイク画は「昇天の礼拝所」と同様、ムラーノ島産のガラスと石のタイルを使っています。モザイクを囲む装飾には、イギリス・デヴォンシャー産のアラバスター(雪花石膏)と大理石が使用されています。

- 8 祭壇画の上部にある『ステンドグラス』には、イエスの復活と昇天、そして聖霊の降臨が描かれています。キリスト教徒は、イエスが死からよみがえり、その復活から40日後に天に昇られたと信じています。
- 9 『マッカーートニー (Macartney) 礼拝所』の名称は、当大聖堂の初代首席司祭を務めたハッシー・バーク・マッカーートニーにちなんで名づけられました。また、多くのメルボルン大主教の遺灰が当大聖堂に納められています。
- 10 聖歌隊席の中央へお進みください。ここでは大聖堂の少年と男性による聖歌隊および少女・女性・男性による聖歌隊が、週に6回の聖歌礼拝を行っています。過去125年にわたり、聖歌隊員の多くが自分の名をこの聖歌隊席に刻み、奉仕の証として残しています。
- 11 聖歌隊席の上を見上げると、ムーアハウス・タワーの内側に輝く星をあしらったステンドグラスの「ランタン(ガラス屋根)」が見て取れます。この中央尖塔は高さ97メートルを誇り、聖公会の聖堂としては、英国のソールズベリー大聖堂(123メートル)に次いで世界で2番目に高い尖塔です。
- 12 当大聖堂に設置されている壮麗な『パイプオルガン』は、1891年、英国の著名なオルガン製作者、T.C.ルイスによって制作されました。このパイプオルガンは、4段の手鍵盤、ペダル鍵盤、53のストップを備えています。また、カンブリアから来た『木製サイドボード(装飾棚)』には、ヨーク大聖堂の「キングス・スクリーン」を模して英国の歴代王が表現されています。
- 13 1986年、ヨハネ・パウロ2世教皇は当時のメルボルン聖公会大主教デービッド・ベンマンと共に『団結(Unity)の礼拝所』の祈禱台にて祈りを捧げ、団結のキャンドルに火を灯されました。このキャンドルは、彫刻家マイケル・メザロスによって作られた燭台に立っています。どうかキリスト教徒の団結のために、あなたご自身の祈りの言葉をお捧げください。そして、その祈りを私たちと分かち合ってくださいましたら幸いです。
- 14 ラテン語の「fons(源・源泉)」に由来する『洗礼盤(FONTS)』は、キリスト教の洗礼式が行われる場所です。当大聖堂には2つの洗礼盤が設けられています。水によって洗い清める洗礼の儀式は、キリストにおける新しい命の始まりを象徴しています。全身を水に浸す洗礼(全身浸礼)のための大きな洗礼盤は、第3代メルボルン主教フィールド・フラワーズ・ゴウの奉仕を称えて設けられました。イースター(復活祭)をはじめ、現在も定期的に洗礼式で使用されています。
- 15 『拝廊部仕切り(スクリーン)』は、タスマニアブラックウッドで彫られており、オーストラリアの動物や「聖なる三位一体」の象徴が見て取れます。また、トランペットを持った天使2人が、キリストの福音を高らかに告げ知らせています。
- 16 大聖堂の入り口にある『儀式用の扉』は、2006年にメルボルンの芸術家、ヤヌシュ・クズビツキとマグダ・クズビツキによって制作されました。扉の中心には、まばゆい光の閃光が表現されており、これは聖パウロがダマスカスへの道で回心(改宗)したことを象徴しています。そして4福音書を記したマタイ、マルコ、ル
- 17 儀式用の扉の上部には、「テ・デウム(Deum)の窓」と呼ばれる大きなステンドグラスがあります。テ・デウム(Te Deum)とは、古代ラテン語の聖歌で「主よ、あなたを賛美します(We praise Thee, O Lord)」という意味です。この窓には、復活し昇天されたキリストを聖人と天使たちが賛美する様子が描かれています。当大聖堂の守護聖人である聖パウロは、イエス・キリストを敬い礼拝するすべてのキリスト教徒を「聖人」と呼びました。この窓に描かれたキリストは、祝福を与えるために手を掲げておられます。どうか本日、キリストの祝福があなたの上にありますように。

お帰り際には、このガイドシートをご返却くださいますようお願いいたします。